

武蔵野東中学校

2020 年度 学校自己点検・評価

平成 14 年 4 月に中学校設置基準の一部改正により、中学校は「教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。」と定められました。これを受けて本校では、平成 15 年度より、自己点検評価票を作成しております。そして、平成 19 年度からは、本校の教育方針、現状や今後取り組むべき課題を「自己点検評価票」としてまとめ、ホームページにて公表することにいたしました。本校の現状をご理解いただきたく参考となれば幸いです。なお、本校は、この自己点検・評価を基に、学校を挙げて改善・改革に取り組み、より良い教育活動を行うように努めております。

教育目標	校訓 知性(高き知性) 根気(粘り強い心と体) 友愛(温かき友愛) 豊かな感性と高い知性を身につけ、強い意志をもって根気よく努力し、心身ともにたくましい生徒の育成を目標としている。
教育の特徴	<ul style="list-style-type: none">・健全児と自閉症児が学びあう混合教育の環境において友愛の精神を大切にしながら、好ましい人間関係の確立を体得させる。・義務教育の仕上げとして、生徒の自立を促しつつ個人の能力を最大限に引き出すため独自の教育内容を編成し実践を行う。・健全児クラスにおいては、上級校への進路選択の指導を教育課程の中に位置づけて行う。・自閉症児クラスにおいては将来の社会自立に向けて、高等専修学校の教育につながる体験的・実習的な学習を重視する。

I 教育の目標と重点	取り組みとその評価
2020 年度の重点項目	新たな価値観を創造する本質的な学び ・『探究科』『生命科』の充実 ・教科横断型の探究授業の追求 ・ICT 環境の整備と活用 ・生徒会組織の改編 ・キャリア教育の充実(自閉症児クラス)

<p>具体的な取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな価値観を創造できる資質」を養うべく、『探究科』では生徒自身が社会に目を向け、必要とする学びを自ら模索する。また昨年度より行っている教科横断型授業をさらに充実させる。 ・健全児クラスの生徒全員に一人一台の PC (Chromebook) を配備し、授業で活用する。特に『探究科』『生命科』をはじめとした各教科で、学習の幅を広げることに繋げる。 ・生徒主体の活動を目的として、大幅な友愛会(生徒会)組織の改編を行い、行事や役割等の新たな仕組みづくりを生徒たち自身に考えさせる。また、自閉症児クラスの生徒が責任感をもって取り組むことのできる委員会を発足する。 ・自閉症児クラスにおいては引き続き、「キャリア教育の充実」の視点から諸活動を推進。自己目標の理解と自己評価を目的として、生徒用の目標項目集を配布し、授業などで活用する。 <p>※新型コロナウイルスの流行による緊急事態宣言の発出による全国的な休校期間中(4月・5月)は、メール配信システムを利用し、オンラインにて教科担当者による授業動画を通常の時間割に沿って配信した。また全員に配布している個人アカウントにより、教材の配信や課題の回収を行った。</p>
<p>取り組みの成果と達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間中のオンライン授業により、ほぼ予定通りカリキュラムを進めることができた。機材については、必要に応じて家庭に PC を貸し出した。また個人アカウントを配布して教材の配信や課題の回収、会議アプリを利用した授業、ホームルームや部活動のミーティングなど双方向の取り組みを行った。 ・学校再開後は、日常の学校活動において PC の活用とアプリケーションの有効利用により、教師と生徒、また生徒同士で双方向の情報・意見交換を行い、本質的な学びにつなげることができた。 ・『探究科』では 1,2 年生全員が発表の機会をもった。特に 2 年生は学園祭で個人探究成果のプレゼンテーションを行うことで、訴求力を含めた総合的な力を伸ばすことができた。 ・『教科横断型授業』を、昨年度よりさらに数多く実施したことで、生徒がより多面的な見方をできるようになり、思考力が伸びた。 ・友愛会組織改編にあたり、新たな仕組みづくりを生徒たち自身が考え、行事等における企画・運営に責任をもって取り組み実行したことで、自信をつけた。 ・自閉症児クラスでは、生徒用のスキルアップのための目標項目集を使い、生徒自身に目標を理解させて取り組ませることができた。 ・自閉症児クラスでは、外部講師による講演を行い、意識向上とスキルアップにつなげた。

教員・生徒・保護者への浸透度	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、生徒ともに日々の教育活動の中で積極的に推進し浸透している。 ・保護者へは保護者会や学校通信、ホームページにて取り組みを紹介。
II 教育環境	
校舎・設備等の質的・量的整備状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内全域に無線 LAN を整備。 ・特別教室に電子黒板を増設。 ・生徒用端末として PC (Chromebook) を追加購入し、健常児クラスは 1 人一台の配備が実現。 ・自閉児クラスは学校所有の PC により、授業では一人一台の利用ができる。 ・HR 教室に PC の充電保管庫を設置。 ・運動場大扉は、老朽化にともなう交換。
教育機器の適切性と充実度	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン環境の充実により、教育の質を高めることができています。
III 教育課程	
カリキュラムの特色化と適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の完成を目指し、知・徳・体、バランスのとれたカリキュラムを編成している。 ・健常児クラスでは、本質的な学びを重視しつつ、高校受験に臨むための充実した校内指導を特色とする。 ・独自教科として『生命科』『探究科』を設置している。 ・自閉症児クラスでは、将来の社会自立に向けて、生活や職業に役立つ内容で教科カリキュラムを編成している。
教育システム全体の工夫と充実度	<ul style="list-style-type: none"> ・3 学期制。健常児クラスは 1 クラス約 30 名、自閉症児クラスは 1 クラス約 12 名で編成し、少人数制によるきめ細かな指導を実施している。
行事活動	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間のため、また新型コロナウイルス感染防止のため、球技大会、合唱コンクールは実施しなかった。スポーツ大会、学園祭、発表会、スピーチコンテスト、英語スピーチコンテストなどを規模と内容を縮小して実施。生徒が主体的に取り組んだ。
校外教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、例年行っている宿泊を伴う校外学習(グアム修学学習・清里山荘合宿・チロル学園合宿・京都奈良学習・スキー教室)は中止。3 年生は 3 月に東京近郊での修学学習に変更して実施。
IV 教科指導	
指導計画と教員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに指導計画を見直し、新たな視点で教科カリキュラムを編

	<p>成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健常児クラスのクラスを分割した習熟度別授業には、それぞれのグループに教員を配置。 ・自閉症児クラスの実習的・体験的な授業には、担任の他に専科教員ほかの補助教員を配している。
習熟度別授業	<ul style="list-style-type: none"> ・健常児クラス1、2年の英語と数学で2クラスに対して3レベルの習熟度別授業、3年生では英語、数学、国語、理科、社会で2クラスに対して3レベルの習熟度別授業を実施している。今年度は3年生については、3学期は感染症防止対策として更に少人数のグループを編成した。 ・自閉症児クラスでは、国語、数学、英語、一般(理科・社会)の習熟度別グループの授業を行っている。
個に即した授業	<ul style="list-style-type: none"> ・健常児クラスでは、本校オリジナルの『プランノート』を使用して、生徒個人の家庭学習を、生徒自身で立案・実行できる手立てを指導して効果をあげている。各教科の『自主学習ノート』は、日々、生徒が家庭で学習してきた内容を教科担当者が見て、個の理解度を把握し、意欲的な学習に向けての指導に役立てている。
資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・英語検定は、健常児クラス全員が受験。3年生の約70%が準2級以上を、97%が3級以上を取得するなど、顕著な結果をあげている。また英検3級以上取得の希望者には、TOEIC Bridgeの校内受験を勧めている。 ・漢字検定にも、健常児クラスのほぼ全員の生徒が取り組み、良い成果をあげている。
授業評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に教科ごと、生徒による授業評価を実施している。 ・1学期と2学期に1回ずつ、全教員が互いの授業を研修し、評価する機会を設けている。
シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めにシラバス(生徒用・保護者用)を配布している。 ・特に生徒用のシラバス“Higashi Navi”は家庭学習の手引きとしても有効に活用されている。
V 生徒の活動	
友愛会(生徒会)活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は生徒のより主体的な活動を目的として、大幅な組織の改編を行った結果、行事の運営や日々の学校生活の運営に関わって、生徒による発案、企画、運営が活発化した。
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・健常児クラスの約90%以上が加入。

	<p>・今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各地区の予選大会、都大会、全国大会等の多くが中止となった。以下は今年度を実施された大会結果。</p> <p>・【陸上競技部】全国大会 女子走り幅跳び 20 位、東京都大会出場 1,2 年男子走幅跳 1 位、2 年女子 100m ハードル 2 位。</p> <p>・【体操競技部】東京都大会 男子団体総合 3 位、女子団体総合 8 位、女子個人総合 4 位。</p> <p>・【卓球部】東京都新人大会 女子 3 位。</p> <p>・【美術部】第 48 回東京都私立中学高等学校「生徒写真・美術展」3 年男子 特選</p> <p>・小金井市表彰小金井市体育協会スポーツ表彰 (対象期間 2019 年 11 月～2020 年 10 月)</p> <p>栄光賞:ダンス部(全国コンクール 2 位)、特別奨励賞:2 年男子(東京都大会 1,2 年男子走幅跳優勝)、奨励賞:2 年女子(東京都大会 2 年女子 100m ハードル 2 位)</p>
各種表彰	<p>・第 64 回全国学芸サイエンスコンクール(旺文社主催)、社会科自由研究部門銅賞(全国 1376 点応募中上位 3 位)受賞。 ※第 63 回に続き 2 年連続入賞。</p>
VI 進路指導	
進路相談の充実	<p>・健常児クラスは、1 年次からの上級学校説明会への参加や 2 年次以降の進学説明会、3 年次の三者面談(2 回)などを実施。担任と生徒の個別相談などを適宜に実施している。</p> <p>・自閉症児クラスは、上級校である高等専修学校への進学に向けて、保護者の研修会や説明会を実施している。</p>
進路指導の充実	<p>・健常児については高校受験に向け、校内指導にて万全を期す態勢をとっている。3 年生には 5 科の習熟度別授業(クラス分割)や、週 3 回放課後の全員参加の受験指導「特別進学学習」を実施して、志望校合格に絶大な効果をあげている。</p>
高校受験結果	<p>・全員が各自の将来の目標に照らして、上級校への進学を果たしている。全合格校については、ホームページに公表。</p>
VII 研修	
内部研修	<p>・教科指導に関して、校内教科部会主催の授業研修会を実施。</p> <p>・体罰防止に関する職員研修を行った。</p> <p>・消防署の方による AED、心肺蘇生法の研修、また警察署員による防犯研修を定期的実施。</p> <p>・エピペンの取り扱い研修を実施。</p>

外部研修	<ul style="list-style-type: none"> ・外部で主催される、教科指導に関する研修会に参加。(オンライン含む)
VIII その他の教育活動と公開性	
保護者の協力	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会活動として学園祭における催しへの協力がおこなわれている。
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市教育委員会後援により陸上クリニックを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインでの講座を実施。
外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定していた希望者参加型のサイエンス講座、社会科見学講座、美術館見学講座は中止。 ・理科教育に関して、国立天文台主催「ふれあい天文学」に希望者が校内にてオンラインで参加した。 ・外部講師を招いて、健常児クラスを対象に「防犯安全教室」「経済・金融に関する講演会」、「薬物乱用防止教室」を、自閉症児クラスを対象に「スマホ・ケータイ安全教室」、「新聞記者から学ぶ『伝える』力の講演会」を実施。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信「ヒガシコンパス」を毎月発行。 ・ホームページにて積極的に日々の学校生活に関する情報を発信している。 ・必要な連絡事項は、メール配信システムで保護者に随時通知している。
IX 安全・危機管理	
緊急時対応	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年定期的に、火災避難訓練、防災避難訓練を実施。 ・緊急時の対応マニュアルを制定し職員間で周知。 ・保護者とのメールによる緊急連絡システムを整え、災害時用の連絡手段としている。 ・防災用品や災害時用備蓄品を整備している。 ・生徒に「災害時ポケットマニュアル」を配布。 ・生徒の防犯教室、薬物乱用防止教室を実施。 ・職員の防犯研修を実施。 ・自転車通学者への安全指導。 ・都内と近隣県私立学校間の「緊急避難校ネットワーク」について周知。

防犯・防災チェック態勢	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの来校者について防犯カメラを設置し、常時、目視できる環境となっている。 ・定期的に災害時の設備と備蓄を確認。また日々の防犯態勢として、来校者に対してはインターホンを通しての応対、入校のシステムを実施している。在校生の保護者が来校する際には、校内では専用のIDカードを着用する。
情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ・学園規定「個人情報保護の取り組み」に従って個人情報を管理している。また、漏洩を防止する管理システムを備えている。
X 保健・衛生	
生徒及び教職員の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDを備え、全職員が非常時には取り扱える態勢としている。 ・定期的な健康診断を実施。養護教諭による日々の看護や啓蒙のほか、生徒対象とした薬物乱用防止教育を毎年行っている。また、心疾患や腎臓疾患を持つ生徒用、またアレルギーを持つ生徒用の「学校生活管理指導表」の保護者からの提出を受けて留意している。 ・AEDと心肺蘇生講習、エピペンの取り扱い講習を実施。 ・職員のストレスチェックテストを実施。
衛生に関する点検	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭による毎日の水質検査を実施。 ・学校薬剤師に、定期的に環境に関する指導を受けている。
新型コロナウイルス感染防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・職員の日々の検温及び、登校時・出勤時における手洗い・手指消毒の徹底。 ・使用場所等の消毒を一日一回以上実施。 ※感染状況により対策を強化している。

2021 年度の取り組み

「新たな価値観を創造する本質的な学び」

- ・探究型の学びの発展
- ・探究するためのスキルの習得
- ・友愛会活動の発展
- ・(自閉症児クラス)キャリア教育

引き続き『探究科』授業や『教科横断型授業』を通し、学ぶ楽しさや知識の応用理解などを基本として、本質的な学びの追求を図る。特に探究を深めるためのスキルの習得を授業内で行う。

昨年度からの友愛会組織の改編により、一層の自主的な活動と、世界にも目を向けた発展的な取り組みができるようにする。

自閉症児クラスにおいてはキャリア教育を重点とし、生徒自身が目標を理解して取り組む中で自己評価力を上げ、他者理解につなげていく。